

1. 球根とは:根や茎などの一部に栄養をためて膨らんだ貯蔵器官のこと。球根植物は分類上では宿根草になる。球根の種類は以下の2~5を参照のこと。
2. 鱗茎:チューリップや玉ねぎ、ユリ、ラッキョウのように茎の部分に葉っぱが何枚も重なったタイプの球根で、葉っぱが変化したものである。多肉化して多くの貯蔵物質を蓄えている。
3. 球茎と塊茎:どちらも茎に栄養がたまったもの。コンニャクやサトイモは球茎。
ジャガイモやシクラメンは塊茎。どちらもでんぷんの塊。両者の違いは、薄い皮に包まれているかいないかで、包まれているほうが球茎である。
4. 根茎:ハスやショウガなど、地下茎が肥大化し、水平に伸びる。
5. 塊根:サツマイモのように根が肥大したもの。ジャガイモは茎が発達したもの。
6. 球根の性質:
 - ①球根は乾燥に強く、翌年まで栄養を持ち越すことができる。これで植物にとって都合のいい時期を待つ。
 - ②球根はクローン体:球根を育てていると、横に小さな球根ができて、そこから新芽が出てくる。こうなる前に株分けして増やしていく。これは有性生殖ではなく「クローン生殖」である。
親球根と同じ性質、遺伝子、花色の球根が生まれる。
 - ③球根植物も種子を作る:種でも増えるし、球根でも増える。しかし、球根植物の種子は発芽率が悪く、成長も遅い。結局球根で増やしたほうが早い。
 - ④夏に休眠するもの:夏の乾燥時期に休眠するものが多い。夏までに花をさかせて葉っぱが枯れる。このタイプは休眠時期に完全に眠るために、水をやると球根が腐ってしまう。冬の寒さには強いものが多い。
 - ⑤冬に休眠するもの:春から夏にかけて生育して、冬になると地上部が枯れて休眠するタイプ。寒さに弱いものも多く、庭植している場合は、彫り上げる必要がある。冬は休眠するので水は控える。

付:ユリ根について

1. 食用となるユリ根は、ヤマユリ、オニユリ、コオニユリの鱗茎部分である。市場に出回っているのはコオニユリがほとんどだといわれる。
2. ユリ根は冷涼な気候を好むので、その産地は北海道ものが多い。
3. ユリ根の赤ちゃんであるムカゴ(珠芽)が付くのはオニユリである。(コオニユリにはつかない。)
4. ユリ根を育てようと思うと、ムカゴから球根を作るまでに3年かかる。
5. ムカゴのできるオニユリは種子は作らない。

以上